



SymBio Pharmaceuticals Limited
San-Ei Building, 5-23-7 Shimbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0004, Japan
Tel: +81-3-5472-1125 Fax: +81-3-5472-3054 <http://www.symbiosis.co.jp/>

2007年3月16日

シンバイオ製薬株式会社

代表取締役社長 吉田 文紀

シンバイオ製薬が開発品第2号のライセンス契約を締結

米国アベール・ファーマシューティカル社から制吐剤を導入

シンバイオ製薬株式会社は3月15日付けで米国ニュージャージー州に本社を有するアベール・ファーマシューティカル社 (Abeille Pharmaceuticals Inc.:以下「アベール社」) との間で同社が開発している制吐剤「AB1001」につき、日本、中国、韓国、台湾、及びシンガポールにおける開発及び販売についての独占的権利を取得するライセンス契約を締結致しました。当社の開発品目は「AB1001」の導入によりベンダムスチンを含めて2品となり、今後の当社の事業の展開をより一層確かなものとする事になりましたことをご知らせします。

「AB1001」は、グラニセトロンを主成分とする持続型貼付剤で、従来の制吐剤が注射剤、あるいは経口剤であるのと異なり、一回の貼付により悪心・嘔吐を抑制する効果が5日間持続するという特性を有します。このため、「AB1001」は今後増加すると考えられる外来における癌化学療法の実施療法として、患者さんにとって大きな利便性のみならず、より優れたコンプライアンスを提供できるものと期待しております。

ライセンサーであるアベール社は、米国食品医薬品局 (FDA) でスペシャル・プロトコール・アセスメント (SPA) を受けた後、米国で第 相臨床試験に入り、2008年12月末までに承認取得を予定しています。

当社と致しましても、日本を含むアジアでの承認を取得すべく、早急に臨床試験を開始し、2009年には、香港およびシンガポールでの上市を目指し、日本におきましても早期の承認取得を計画しております。

シンバイオ製薬は2005年3月25日に設立されて以来、100社を超すバイオベンチャー・製薬企業と導入交渉を進めてきましたが、その中で82品目について秘密保持契約を結び、さらに6品目に絞り、現在交渉中です。シンバイオ製薬は、今後も、癌、血液、自己免疫疾患を重点領域として、患者さんの声を真摯に受け止め、満たされない医療ニーズに応えることを事業目的に展開しています。

癌化学療法による悪心・嘔吐の抑制は、癌患者さんの治療において重要な支持療法の一つと考えられており、今回、当社の企業使命に合致した薬剤が導入できたものと考えております。

以上

[会社概要]

シンバイオ製薬株式会社

シンバイオ製薬株式会社は、前アムジェン社本社副社長でアムジェン株式会社を創業した前社長の吉田文紀が 2005 年 3 月に設立した医薬品企業です。

経営理念は「共創・共生」(共に創り、共に生きる)で表され、患者さんを中心として医師、科学者、行政、資本提供者を「共創・共生」の経営理念で結び、満たされない医療ニーズに
応えてゆくことにより、社会的責任及び経営責任を果たすことを事業目的としております。
シンバイオ製薬についての詳細な情報は <http://www.symbiosis.co.jp> をご覧下さい。

アベール・ファーマシューティカル社 (Abeille Pharmaceuticals Inc.)

アベール社は、2003 年に設立された米国ニュージャージー州プリンストンにあるバイオベンチャー企業です。アベール社は、世界の満たされない医療ニーズに応えるため、従来の薬剤の欠点を克服する剤型および投与方法などの開発を行うことにより、新しい治療方法や支持療法などを提供し、患者さんの QOL を高めることを企業使命としています。重点領域は、「癌」治療に伴う「支持療法」、「糖尿病」、「代謝障害」、「中枢神経系」等です。

アベール社についての詳細な情報は <http://www.abeillepharma.com> をご覧下さい。

[本件に関するお問い合わせ先]

シンバイオ製薬株式会社

執行役員 事業開発本部長 関 京子

Tel: +81 (0) 3 5472 1123

E-mail: kseki@symbiosis.co.jp

URL: <http://www.symbiosis.co.jp>

<ご参考>

[化学療法に伴う悪心・嘔吐について]

癌化学療法に伴う悪心・嘔吐は、約70～80%の頻度で出現する症状といわれ、食欲不振や脱水、更に悪化した場合には電解質異常症状、栄養枯渇を合併することもあり、患者さんにとって最も苦痛を感じる副作用の一つです。悪心・嘔吐は患者さんの身体的および精神的状態の悪化をもたらし、癌治療の継続にも大きな影響を及ぼします。

[グラニセトンについて]

グラニセトンは、悪心・嘔吐を引き起こすシグナルを発する役割をもつセロトニンとセロトニン受容体との結合を選択的に阻害することにより、優れた制吐効果を発揮するセロトニン受容体拮抗型制吐剤です。グラニセトンは、抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)等の効能・効果が認められ、既に注射剤と経口剤が癌化学療法の支持療法として広く汎用されています。

[市場性について]

癌患者数:約110万人

化学療法施行中の癌患者数:約40万人

セロトニン受容体拮抗型制吐剤市場:約300億円(薬価ベース)

[貼付剤について]

貼付剤は、からだに貼ることで有効成分を皮膚から持続的に供給するため、薬効の維持や副作用の軽減を可能にし、取り扱いも容易であるとされています。

現在、癌化学療法の支持療法として、癌患者さんの「痛み」の治療薬として貼付剤が発売され、幅広く使用されています。

今後、癌患者さんの「悪心・嘔吐」の治療についても、患者さんに多様な選択肢を与えることが可能となる貼付剤は、癌患者さんのQOLに大きく貢献するものと考えます。